

第17回永井隆平和賞発表式典開催

博士「生い立ちの地」から恒久平和へのメッセージ

9月9日、三刀屋文化体育館アスバルで「第17回永井隆平和賞発表式典」を開催。平和賞の授賞式を行うとともに、俳優加藤剛さんを招いての特別対談を開き、参加者約800人が「愛と平和」について考え、博士「生い立ちの地」雲南から、恒久平和へのメッセージを発信しました。



「如己愛人」、「平和を」の精神を世界に向け生涯訴え続けた永井博士は、幼少期を雲南市三刀屋町で過ごしました。永井隆平和賞は、博士の意思を継承し、雲南の地から「愛と平和」のメッセージを全世界に訴え続けようとして平成3年度に創設したもので、毎年全国各地からたくさんの方の作文・小論文が寄せられています。

最優秀賞に輝いた4人が作品を朗読。久野小学校2年生の新田桃子さんが、同校で取り組まれ、長時間のメディア接触を防ぐノーテレビデーを促すとともに電気の節約につながる「取り組みに励み、節約できた電気料金を白血病などの戦争被害で苦しむイラクの子どもたちの薬代として役立てたい」と発表しました。



この日は、永井博士の生誕100年記念事業として、映画「この子を残して」(木下恵介監督作品)で永井博士役を演じた俳優加藤剛さんと平和賞最終選考委員寺脇研さんが「愛と平和」について対談しました。加藤さんは、博士が多感な幼少期を過ごした雲南市を訪れた感想や、映画を通じて感じた博士の生き方や偉大さについて話しました。また、博士の著書「いとし子よ」中に掲載されているエッセイ「鳩と狼」を朗読。最後の一文を読み終えると、涙を流す参加者の姿も見られ、己の如く人を愛した永井博士の言葉の重みを会場にいる誰もがかみ締めているようでした。

第17回 永井隆平和賞入賞者

小学生低学年の部(総数 408点) (敬称略)

賞	氏名	テーマ	都道府県名	学校名及び学年
最優秀賞	新田 桃子	久野小のノーテレビうんどうもやくに立つよ	島根県	雲南市立久野小学校2年
優秀賞	福場 未唯	やさしさのたね	島根県	雲南市立掛合小学校2年
佳作	長見 怜奈	「いのちを大切に！」	広島県	広島市立落合小学校2年
佳作	多々納 智美	友だちの家で命をみつけたよ	島根県	雲南市立三刀屋小学校3年

小学生高学年の部(総数 864点)

賞	氏名	テーマ	都道府県名	学校名及び学年
最優秀賞	長尾 光玲	「平和は自分からやって来ない」	埼玉県	鶴ヶ島市立藤小小学校4年
優秀賞	成沢 自由	兄ちゃんのなみだ	千葉県	印西市立内野小学校4年
佳作	林 結菜	私の家族	島根県	雲南市立大東小学校6年
佳作	長谷川 綾乃	まほう使いのおばあちゃん	愛知県	豊田市立市木小学校5年

中学生の部(総数 991点)

賞	氏名	テーマ	都道府県名	学校名及び学年
最優秀賞	城島 未来	アフリカが教えてくれたこと	東京都	頌栄女子学院中学校3年
優秀賞	伊敷 ひかり	伝えるべきこと	沖縄県	糸満市立三和中学校3年
佳作	大家 綾華	世界の理想	埼玉県	東京学芸大学附属大泉中学校3年
佳作	儀間 実柚	「知ることから」	沖縄県	南風原町立南風原中学校3年

高校生の部(総数 212点)

賞	氏名	テーマ	都道府県名	学校名及び学年
最優秀賞	高橋 昌子	その見えない絆を強めあつて	山口県	山口県立宇部高等学校2年
優秀賞	柳原 茉美佳	私達の平和構築	大阪府	大阪教育大学附属高等学校2年
佳作	新垣 美樹	平和への礎	沖縄県	沖縄県立開邦高等学校2年
佳作	万場 幸	身近なところから平和へ	島根県	島根県立三刀屋高等学校2年

成人の部(総数 114点)

賞	氏名	テーマ	都道府県名
最優秀賞		該当者なし	
優秀賞	大矢 哲	平和への感性をもつこと	東京都
佳作	鎌田 俊三	『誓い』	広島県
佳作	大矢 透	感謝して生きること	山口県

新田桃子さん



雲南ニユース

黒田征太郎さんと「平和の旗を作るうー!」

世界の舞台で活躍するイラストレーター黒田征太郎さんとの協同創作を通じ、平和の尊さについて考える催しが、8月26日、三刀屋文化体育館アスバルで行われ、参加した保育園児から大人までの約50人が、本物の芸術作品にふれながら、黒田さんとの創作活動を楽しみました。

同イベントは、雲南市にゆかりの深い永井隆博士の生誕100年を迎える本年度、今一度平和の尊さについて考えるとともに、創作活動を通じて子どもたちに豊かな心を培ってほしいと、心と心を結ぶ文化芸術による創造のまち支援事業実行委員会が主催。黒田さんは、参加者らとともにイラストを描きながら、



日常生活の中に尊い平和がたくさんあることや「難しく考えず、気持ちを素直に表して」と絵を描く楽しさを伝えました。参加者は、黒田さんの温かい指導のもと、平和に対するイメージや思いを表現。太陽、友達、動物、花などをテーマとした作品を完成させました。

「平和を」の都市宣言のまち 永井隆博士 生誕100年 シリーズの

今年、永井隆博士生誕100年の年にあたることから、博士が残した恒久平和と隣人愛のメッセージを振り返り、顕彰していきます。



「ベルギーと日本を繋ぐ『ロザリオの鎖』」原爆の犠牲となった妻を偲びながら、二人の子どもたちとの生活を描く永井博士の著書『ロザリオの鎖』が、博士が亡くなった翌年の1952年、ベルギーで翻訳出版されました。当時24歳だった詩人マルセル・ピラ氏はこの本に強く心打たれ、その感動を40行の詩「カヤノのためのエレジー」に表しました。中でも彼の脳裏を離れなかったのは「カヤノは泣かぬ子になった」という言葉でした。その後、ピラ氏はベルギーやオランダで行われた平和活動のなかで広くこの詩を紹介しました。

原子爆弾の悲劇から60年余、この詩は音楽となって人々の前に姿を現しました。ベルギーの若い芸術家によって楽曲となった「カヤノのためのエレジー」は、ソプラノが詩を歌い、一部が朗読され、楽器がこれに伴奏し、同時に映像が写されるという複合的な楽曲です。今秋ついに日本公演が行われます。

「カヤノのためのエレジー」三刀屋公演

【日時】10月29日(月)午後3時30分 開場
【会場】三刀屋文化体育館アスバル
※(雲南市)三刀屋公演以外に、東京、大阪、広島、長崎で公演が行われます。